出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小原, 拓, 岸, 玲子, 佐田, 文宏, 清水, 厚志, 菅原, 準一, 土屋, 賢治, 堀川, 玲子, 目時, 弘仁, 森崎, 菜穂, 森, 千里, 栗山, 進一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004026

DOHaD 研究 (ISSN 2187-2597)
2021 年 第 9 巻 第 2 号 88 頁

第 10 回日本 DOHaD 学会
＜一般口演 5＞

出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究

1 東北大学、2 北海道大学、3 中央大学、 4 岩手医科大学、 5 浜松医科大学、6 成育医療研究センター、7 東北医科薬科大学、7 千葉大学

小原　拓
岸玲子 2、佐田文宏 3、清水厚志 4、菅原準一 1、土屋賢治 5、堀川玲子 6、目時弘仁 7、森崎菜穂 6、森千里 7、栗山進一 1

海外における出生コホート研究の結果に基づき、胎児期から乳幼児期の環境が生活習慣病等の慢性疾患のリスクと関連していると考えられている(DOHaD 仮説)。欧米においては、出生ゲノムコホート研究の連携基盤が構築されており（Nat Genet. 2011;44:187-92）、ALSPAC 研究をはじめとする各コホートにおいても、大規模化および Multigeneration 化が進められると共に、ゲノム情報を含む Individual Participant Data（IPD）解析によって、DOHaD 仮説の検証が行われている。本邦にも、数多くの出生コホートが存在し、2019 年 1 月の日本 DOHaD 学会・DOHaD 疫学セミナー共催で開催された「出生コホート研究連携ワークショップ」等での議論も考慮の上、2019 年 4 月から日本医療研究開発機構成育疾患克服等総合研究事業-BIRTHDAY「出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究」が開始されている。具体的には、日本 DOHaD 学会疫学セミナー分科会を中心に、国内の出生ゲノムコホート研究の連携に向けた検討、および妊娠高血圧症候群（HDP）/ 低出生体重（LBW）それぞれのリスク因子・予後の統合解析に向けた解析手法の検討を進め、統合リスク予測式の構築を目指している。当初、北海道スタディ（母児 20,926 組)、三世代コホート調査（母児 22,493 組)、BOSHI 研究（母児 605 組)、千葉出生コホート（母児 433 組)、成育母子コホート（母児 1,563 組)、浜松母と子の出生コホート研究（母児 1,138 組）が参加し、各コホートにおけるプロファイルおよび既収集情報・試料に関する情報の収集を進め、各コホートのプロファイル等を登録・管理・閲覧可能な Web ページを作成や日本 DOHaD 学会等と連携したセミナー・研修会の開催が進んでいる。また、HDP/LBW のリスク因子等に関する各コホート独自の解析と各コホートから得られた結果の具体的な統合解析の準備が進められているのと同時に、IPD 解析の実施可能性についても各コホートの情報収集が進んでいる。本研究課題の最大の課題は、背景・目的・開始時期等の異なる本邦の複数の出生コホートをとりまとめ、連携基盤を構築・維持・更新することである。今後、その課題解決のために、各コホートの情報収集、共通項目の洗い出し、各コホートの同意取得内容の精査、ターゲット疾患の測定方法とその精度の確認、今後の精度管理と効率化、相乗効果の創出等々、研究推進のためのサポート体制の充実を推進していく。